

景観形成花壇も冬支度

午後の日差しの中、
バランスよく配置し
花壇の花が映えるよ
うに、苗を植えてい
くメンバー

サルビア、マリーゴールド、メラン
ポジウムの美しい花は、春から秋にか
けて私たちの目を楽しませてくれまし
た。寒さの迫る11月3日、冬の花ビオ
ラ、キンセンカ、葉牡丹に植え替えま
した。

一年を通じて環境美化に取り組むた
めには、日頃の管理が大切ですので、
「八方原の環境を守る会」役員が当番
制で管理をしています。冬の北風や雪
にもめげない花たちをしっかりと見守っ
ていきたいと思えます。

変革迫られる日本農業

農業を取り巻く環境は依然として厳
しい状況が続きますが、日本経済新聞
では日本の農業力を探る「日本の農力」
という連載コラムを掲載しました。

世界的に見ると小さな面積の我が国
ですが、それが生産性の限界にはなら
ないと見えています。世界一の農産物輸
出国はアメリカですが第二位（金額
ベース）はヨーロッパの小国「オラン
ダ」だと指摘します。農地面積は日本
の2割しかないオランダはこの5年間
で輸出額を2倍に増やしています。そ
れは徹底的な農業技術改革や品種改良
による成果と言われています。

世界的には食料が不足しています。
大規模な農業生産を行っているアルゼ
ンチンなどでは、膨大な収穫をしなが

近郊型農地八方原をウォーキングで散策



不動明王の谷にたくさんの人が来訪

市老人クラブ小郡支部女性部
が企画したウォーキング大会が
11月9日に行われ、八方原地区
に約100名の来訪者がありま
した。

岡田天満宮や不動明王などの
史跡や、大きく広がる整備され
た農地などの説明に聞き入って
くれました。

ら慢性的な食料不足に悩まされ続けて
います。米の主要生産国インドは干ば
つ被害で大きく生産量を落とすと見ら
れています。

従来型の農業は変革を迫られていま
す。食用以外の米生産、田植えを省略
する「直播き」など検討する部分は少
なくないという指摘でした。



↑吉賀町の田んぼで見つけた立派な稲の干し方
長谷地区では伝統的なやり方で子ども会などが稲を育てている↓



これはビックリ「ヨヅクハデ」

刈り取った稲を自然乾燥させる昔ながらのやり方を続けているところがあります。

この近辺では横に渡した竹に干すやり方が一般的でした。今でも長谷地区の一部や奥畑の一部では実際に行っています。

島根県の山間、吉賀町で見た稲の干し方は今まで見たことのないものでした。竹を組み合わせて四角すいを作り、横にも竹を渡して四角を囲みます。組み上げた竹の腕の部分に稲が干してあります。

後で調べてみると島根県の江

津市や浜田市で昔から行われていた方法で「ヨヅクハデ」と呼ばれるものに近いようです。「ヅク」はフクロウのことで、そう言えば何となくフクロウが、木に止まっているような形にも見えます。

どの田んぼにもあるものではなく、特別な稲を収穫するためのものではないかと推測されます。

実際には竹を組み合わせた先端部分に稲をかけるのは大変な作業だと思いますが、今も残っているところを見ると何かしら良い点があるのかも知れません。滅多に見ることがないものとカメラに収めさせていただきました。

おごおり文化祭で八方原活躍

11月3日はおごおり文化祭が行われました。八方原地区からは、生活改善実行グループとふれあい朝市グループが出店参加しました。

すっかり有名になった生活改善実行グループの「うどん」は休む暇のない盛況ぶり、大忙しでした。朝市の野菜も売れるものが足らなくなるほどの大繁盛でした。

また文化祭のステージでも、たくさんの方々が活躍しておられました。みなさんご苦労様でした。



たくさんの方々に思わずにっこり (ふれあい朝市グループ)

八方原区長からのお願い

歳末たすけあい運動にご協力を

本年も「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに歳末たすけあい運動が始まります。出費多端の折ではございますが、ご協力をお願いいたします。

後始末をしっかりと

ペットの糞による苦情が相次いでいます。ペットの運動などの際は糞尿などの後始末をきちんとお願いします。

焼却炉の使用は慎重に

焼却炉の事故による火災が発生しました。乾燥する季節となります。より慎重に取扱ください。噴煙への苦情も出ています。適正な使用をお願いします。

ウェブサイト（ホームページ）の紹介

八方原地区のことも掲載したHPを公開しています。<http://www.harataco.org/sigeki/>